

教科・「科目」	国語・「国語総合」	単位数	学習形態	学年	履修学科、必修・選択の別等
		2	座学	2	全学科必修修科目

1. 目標と評価規準

目標	国語を適切に理解し言語能力を高めるために、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの指導を中心に学習します。古文や漢文なども含め総合的な国語の学習を行います。		
評価の観点と比重	評価規準		評価の方法
関心・意欲・態度 (20%程度)	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているか。		学習状況 提出物等
話す・聞く (15%程度)	目的や場面に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめることができるか。		定期考査 学習状況等
書く (15%程度)	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めることができるか。		定期考査 学習状況等
読む (25%程度)	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させることができるか。		定期考査 学習状況等
知識・理解 (25%程度)	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけているか。		定期考査 学習状況等
使用教科書	教科書：数研出版『新編 国語総合』		

2. 年間指導計画

学期	月	単元・教材名	主な学習内容	ICT利活用
1 学期	4	・評論(三) 『コインは円形か』 (佐藤信夫)	・論理の展開をたどり、筆者の主張するところをつかむとともに、新しい分野への関心を広げる。	本文を電子黒板に提示し、指示語の指示内容や接続語から分かる文章の構成などを教える。本文に關係のある画像なども提示する(A)。
	5			
	6	・小説(二) 『羅生門』(芥川龍之介)	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して、読み味わう。	本文を電子黒板に提示し、登場人物の人格や心情が表現された部分を説明する(B)。
	7	・評論(二) 『水の東西』(山崎正和)	・論理の展開をたどり、筆者の主張するところをつかむとともに、新しい分野への関心を広げる。	(A)と同じ
2 学期	9	・古文 歌物語 伊勢物語『芥川』	・古文の仮名遣いや古語に慣れ、的確に音読をする。 ・古典の世界に親しみ、現代にも通じる登場人物の言動を理解する。	電子黒板に本文を提示し、一斉に読ませたり、重要な部分などを指摘したりする。絵巻物などの画像も電子黒板で提示する。
	10			
	11	・随想(三) 『「差」という情報』(中村明)	・文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約したりする。 ・文章の構成を確かめたり表現の特色をとらえたりする。	(A)と同じ。
	12	・表現Ⅰ 「スピーチ」	・相手や目的に応じたスピーチの方法を学ぶ。 ・自分の考えを明確に伝えるための手段を学ぶ。	スピーチの構成について電子黒板に提示する。
3 学期	1	・漢文 史伝 赤壁の戦い(『十八史略』)	・漢文訓読の基礎となる訓点の働きを理解し、訓読ができるようにする。 ・史伝を訓読し、その世界を味わう。	訓点の説明を電子黒板に提示する。また、返り点の問題や格言を電子黒板に提示する。
	2	・評論(三) 『わらしべ長者』の経済学(梶井厚志)	・論理の展開をたどり、筆者の主張するところをつかむとともに、新しい分野への関心を広げる。	(A)と同じ
	3	・漢字・語彙の学習	・就職、進学に必要な基本的な漢字・語彙の力をつける。	問題を電子黒板に提示する。

備考	
----	--